

# 首尾一貫感覚の三要素のバランスによる認知的評価の差の検討

○雲財 啓 (神戸大学大学院人間発達環境学研究所)

キーワード: 首尾一貫感覚 (Sense of Coherence), ストレス, 認知的評価

### 目的

過度なストレスは健康を害する要因であるが、近年はそのストレスから身を守る防御要因に関する検討も少なくない。防御要因として注目されている概念の一つに首尾一貫感覚 (Sense of Coherence) が挙げられる。この概念はストレスとの負の相関があることが明らかにされているものの、明らかになっていない点がいくつかある。その内の一つに、構成要素である把握可能感、処理可能感、有意味感の三つの要素が挙げられる。これらの要素はこれまで首尾一貫感覚としてまとめて検討されてきたために明らかになっていないことが少なくない。明らかになっていない点として、例えば要素ごとの機能、要素間での影響である。そこで本研究では、要素間の影響を検討する前段階として首尾一貫感覚の三要素のバランスに注目し、バランスによってストレスの評価に差が出るか検討を行う。

### 方法

**調査時期および対象者** 2011年7月および10月に大学生623名に質問紙調査を実施し、回答が得られた574名(男性259名, 女性312名, 平均年齢19.84,  $SD = 1.65$ )を分析の対象とした。

**倫理的配慮** 回答は自由意思によるものであること、回答拒否の権利があること、回答拒否による不利益が生じないこと、個人情報保護について調査用紙配布時に口頭で説明を行い、回答された調査用紙の提出によって同意を得たとした。

**調査内容** (a) 13項目版SOCスケール (SOC-13) Antonovsky (1987 山崎・吉井訳 2001)により作成された首尾一貫感覚を構成要素ごとに測定する尺度である。(b) 認知的評価測定尺度 鈴木・坂野 (1998)により作成された尺度であり、設定した状況ごとに「コミットメント」、「影響性の評価」、「脅威性の評価」、「コントロール可能性」の4因子が想定されている。事前調査に基づき二つの場面(対人・課題)を想定し、場面ごとに状況を3つ設定し、もっともストレスだと感じた状況と、もっともストレスだと感じなかった状況を場面ごとに選択してもらった。

### 結果・考察

SOC-13を用いてグループ内平均連結法による階層的クラスター分析を行い、解釈可能性から4つのクラスターを採用し、各クラスターの特徴から Figure 1のようにそれぞれのクラスターを解釈した。次にストレス強度について、場面ごとの状況でもっともストレスだと感じた状況をストレス強、感じなかった状況をストレス弱、選ばれなかった場面をストレス中とした。各状況の認知的評価について、各クラスター間、各ストレス強度間における平均値差を検討するためクラスターとストレス強度を要因とした二要因混合計画の分散分析を行った (Table 1)。これらの結果は、首尾一貫感覚の構成要素のバランスによってストレスの評価に差があることを示唆している。今後、時間経過が首尾一貫感覚の三要素のバ

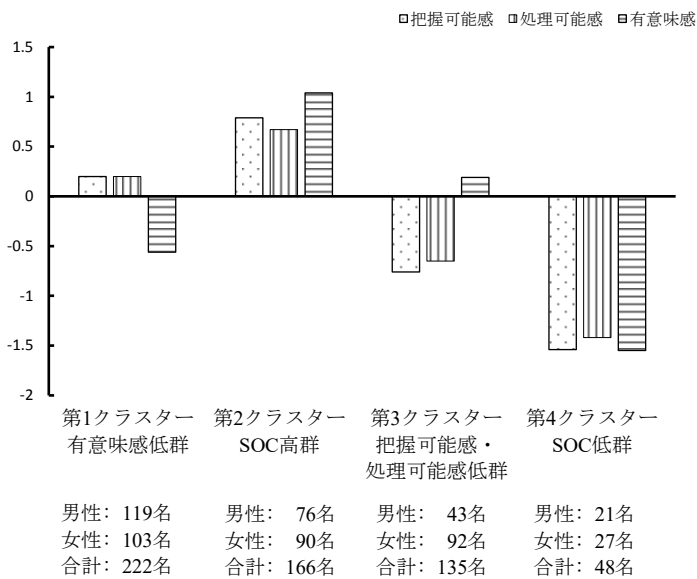


Figure 1 SOC-13によるクラスター分析

Table 1

認知的評価におけるSOC-13のクラスター×ストレス強度の分散分析結果 (対人場面)

| 認知的評価測定尺度 | クラスター     | F値         | ストレス強度           | 交互作用                    | 多重比較                          |        |
|-----------|-----------|------------|------------------|-------------------------|-------------------------------|--------|
|           |           |            |                  |                         | クラスター                         | ストレス強度 |
| コミットメント   | 11.02 *** | 147.67 *** | 1.86 <i>n.s.</i> | ①, ④ < ②, ③             | 低 < 中 < 高                     |        |
| 影響性の評価    | 4.06 **   | 195.30 *** | 2.27 *           | 中: ① < ②<br>高: ①, ④ < ③ | ①~③: 低 < 中 < 高<br>④: 低 < 中, 高 |        |
| 脅威性の評価    | 4.80 **   | 169.77 *** | 1.71 <i>n.s.</i> | ①, ② < ④                | 低 < 中 < 高                     |        |
| コントロール可能性 | 13.49 *** | 28.01 ***  | 1.42 <i>n.s.</i> | ④ < ①, ③ < ②            | 中, 高 < 低                      |        |

\*  $P < .05$  \*\*  $P < .01$  \*\*\*  $P < .001$

各クラスターは次の通り ①: 有意味感低群, ②: SOC高群, ③: 把握可能感・処理可能感低群, ④: SOC低群

ランスに与える影響の検討、一つの要素が他の二つに与える影響の検討を行うことで、首尾一貫感覚がより明らかになっていくと考えられる。利益相反開示: 発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

(UNZAI Satoshi)